

2018年度 新専門医制度  
**総合感染症科**  
Department of Infectious Diseases

研修プログラム到達目標  
感染症診療の原則を身につける



プログラム責任者 連絡先：大曲貴夫 [nohmagari@hosp.ncgm.go.jp](mailto:nohmagari@hosp.ncgm.go.jp)

# プログラムの概要

総合感染症科 Department of Infectious Diseases

- 国立国際医療研究センターは我が国のナショナルセンターの1つで、感染症が診療の柱の一つである。
- 総合感染症科は、一般感染症診療・トラベルクリニック・新興再興感染症対策・院内感染対策など幅広い業務を行っている。
- 専門研修では、入院患者や他科からのコンサルテーション患者の診療を通して、感染症診療の原則を身につけることを主眼に置いている。
- 到達度によっては、感染対策業務・トラベルクリニック・感染症内科外来診療を経験することも可能である。
- 原則として内科専門医取得を目標としているため、修了に必要な症例数が足りない場合、その充足を目的とした他の内科系のローテーションを行う。

# SHORTローテーション 到達目標

総合感染症科 Department of Infectious Diseases

**3**  
months

総合感染症科の入院患者の診療を通して  
感染症診療の原則を学ぶ

**4.5**  
months

総合感染症科の入院患者の診療に加えて  
他科からのコンサルテーションを担当  
することで様々な感染症症例を経験する

**6**  
months

総合感染症科入院患者や他科の  
コンサルテーション患者のアセス  
メントとプランを自ら立てることが  
できる

# LONGローテーション 重点研修2年型 到達目標

総合感染症科 Department of Infectious Diseases

-  感染対策業務を経験し、病院疫学講習会に参加することで、病院疫学と感染対策の原則を身につける。
-  感染症症例の診断・治療について初期研修医への指導を行い、各症例の問題点を的確に理解しディスカッションを通じて適切な治療法を提示できる。
-  24ヶ月のうちエイズ治療開発センターを6ヶ月以上、呼吸器内科(結核)を3ヶ月以上選択し、HIV感染症や結核症を経験する
-  専門医の指導のもと、国内学会で症例報告を行い論文化する。また希望者は専門医の指導のもと臨床研究のデザインを行い、成果を国内外の学会および英文誌で報告する

# 研修終了後の進路

総合感染症科 Department of Infectious Diseases



本プログラムの前身である総合感染症コースの  
修了者の多くが感染症専門医を取得している。

卒業生は修了後、当院でフェローとして診療を継続、  
大学院進学、大学病院/市中病院に勤務、国内/海外でMaster  
of Public Healthを取得、World Health Organization勤務  
などの実績がある。

